

地方独立行政法人岐阜県立多治見病院 平成23年度の業務の実績に関する評価結果の概要

1 地方独立行政法人の評価制度

県は、地方独立行政法人岐阜県立多治見病院（以下「法人」という。）が5年間で達成すべき目標（以下「中期目標」という。）を定め、これに対し法人は、中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）を作成し、中期計画に従って5年間の業務運営を自主的・自律的に行う一方で、法人の業務の実績を第三者機関である評価委員会が事後に評価する制度が設けられました。

評価委員会は、法人が5年間で中期目標を達成できたかを評価することになりますが、各事業年度においても、中期計画の実施状況の評価し、中期目標の達成に向けて順調に進んでいるかをチェックすることになっています。

2 評価結果の概要

全体評価 A（中期目標の達成に向けて順調に進んでいる）

S	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
B	中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
C	中期目標の達成のためにはやや遅れている
D	中期目標の達成のためには重大な遅れがある

大項目	評価の内容（特筆すべき点・課題）	
住民サービス等の質の向上	特筆すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ○コメディカルに対する専門研修参加を支援したほか、インシデントレポートの大幅な増加により医療安全対策の充実も図られた。 ○病院内保育所の充実のうち、病児保育の早期開始が達成されており、働きやすい職場環境の整備について努力がみられる。 ○がん連携拠点病院として患者負担の軽減のため高精度放射線治療装置の導入を決定したこと、常勤精神科医師の増員を達成し、精神科の早期開設が可能になったことなど特色ある病院経営を実現している。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○心臓血管疾患医療については、大学による医師の引き上げというやむを得ない事情ではあるものの、重点的に取り組むべき医療であり、医師を確保し治療を積極的に行われたい。 ○治験管理部門立ち上げのために担当者1名を配置したことは評価できるが、今後の治験実施件数の増加が課題である。 ○大学による医師の引き上げというやむを得ない事情ではあるものの、中津川市民病院への医師派遣が行えなくなっており、医師不足地域への積極的な人的支援を充実させる努力をされたい。
業務運営の改善及び効率化	特筆すべき点	○アウトソーシング導入による成果報酬制度の導入や、医療従事者の業務負担軽減を図るため、医師事務作業補助者等の増員などを積極的に行っており評価できる。
予算、収支計画及び資金計画	課題	○経常収支比率については既に中期計画を達成しており評価できるが、職員給与費対医業収支比率については昨年度から一転計画を下回る実績となっており、中期計画期間中での目標達成に向けて努力されたい。
その他	特筆すべき点	○クリニカルインディケーターの作成など、昨年度評価で意見が付された内容についての検討・実施が的確に行われており評価できる。